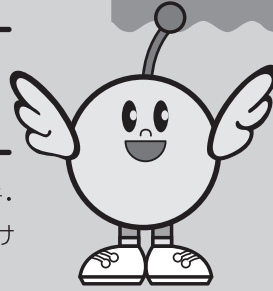


ふくしまの 今が分かる 新聞

故郷とあなたをつなぐ
情報誌

発行：福島県庁 避難者支援課
☎024-523-4250

vol.88
令和3年11月16日(火)発行



ひとつ、ふたつ、
実現する
ふくしま

「ふくしまの今が分かる新聞」では、県内外に避難されている皆さまや被災者・避難者支援に携わる多くの方々へ、避難者支援の取組や福島の復興に向けた動きなど「ふくしまの今」が分かる情報をお届けします。

特集

新ブランド米「福、笑い」
本格デビュー

- 避難先自治体でのワクチン接種について
- 全国の生活再建支援拠点(相談窓口)について
- 原子力損害賠償紛争解決センター(ADRセンター)について

新宮熊野神社 長床 (喜多方市)

喜多方市の新宮熊野神社では、国の重要文化財に指定されている寝殿造の拝殿「長床」に加え、境内の大イチョウも見どころとして知られています。高さ約30m、幹周り約8mの大イチョウは樹齢約800年と言われ、ご神木として大切にされてきました。例年11月下旬までライトアップされ、周囲を圧巻の黄金色に染め上げます。

考えてみよう。
ふくしま
のこと。



特集

新ブランド米「福、笑い」 本格デビュー

この秋、ふくしまから全国に、新しい「おいしさ」が発信されました。これまで全国屈指の米どころとして評価されてきた福島県※ですが、「日本一の米をつくりたい」という想いで、更なる評価、新しいおいしさを追求し、開発した新品种を紹介します。

※全国食味ランキング「特A」獲得数4年連続日本一

たくさんのこだわりと熱い思い

「福、笑い」の開発が始まったのは2006年のこと。理想のお米づくりに向け、14年の歳月をかけてさまざまな情熱が注がれてきました。そしてついに、今年の10月28日から、首都圏と県内の百貨店、高級スーパー、米穀店等で販売が開始されています。

福島県では、「福、笑い」を県のトップブランド米と位置づけ、生産量を限定、高価格帯で販売し、県産米全体のけん引役として、県産米のイメージアップと販売シェア拡大を目指しています。



自信を持って
薦められる、
おいしい
お米です。

JA会津よつば
「福、笑い」研究会会長
株式会社アグリネクスト
代表取締役 齋藤 寛

名称

公募の結果、全国から6,234作品が集まりました。「つくる人、食べる人、みんなが笑顔になり、幸せになりますように」との願いを込め、アドバイザーの意見を踏まえて決定しました。

食味

「かおり、あまみ、ふくよかさ」が自慢です。ふっくらと炊き上がり、コシヒカリ以上に粘りがあって、もっちりとあまい食感は、これまでにない個性的なものとなっています。

生産の こだわり

県などが定めた登録制度により、認められた農家だけが栽培できる品種です。国内で唯一、認証GAPの取得を要件としています。今年度は61名(うち12名は浜通り)の生産者が栽培に取り組みました。

出荷基準

粒の大きさや品質など、厳しい基準を満たしたものが「福、笑い」と名乗ることを許されます。他のお米と同様に、モニタリング検査(避難指示等のあった12市町村においては全量全袋検査)に合格したお米を出荷しています。

デザイン

「お米に支えられ、お米とともに育まれてきた世界を伝えていく。」をコンセプトに、日本の原風景を感じさせるイラストを使用しています。アートディレクターの寄藤文平氏が手掛けました。

プレデビューの様子

昨年度、試験的に栽培された「福、笑い」を県内や首都圏などで限定的に販売しました。

店頭では、名前の縁起のよさやデザインの可愛らしさが評価され、予想を上回る販売実績となりました。



プレデビューイベント



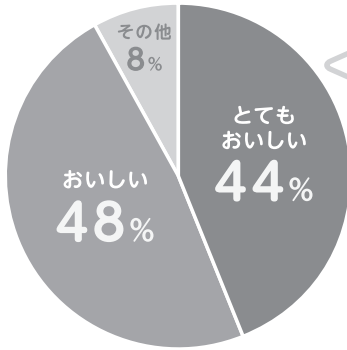
ふくしまライシーホワイトによる商品PR

消費者や専門家の評価

先行販売の購入者アンケートでは、92%の方に「おいしい」と言っていました。
また、お米の専門家からも高い評価をいただいています。

「福、笑い」購入者アンケート結果

2020年11月から限定先行販売を行い、消費者の皆さまから高い評価をいただきました。



- 米のうまさを味わえるようシンプルな食べ方がよい。
(50代男性 東京都)
- 家族団らんで食べたい。
(30代女性 福島県)



「福、笑い」アドバイザー
お米マイスター
小久保 一郎さん

(米穀専門店「こくぼのおこめ(品川区)」経営)のコメント

ご飯のフルコースが楽しめる、
今までになかったお米です。

「福、笑い」はまず香りを楽しんでください。炊き上がった時の鍋のフタを開けた瞬間の立ちのぼる湯気と食欲をそそる香り。食べる時に鼻から抜ける食欲をそそる香り。食べた時の口内に残る上品な旨味。程よいあまみ、いつまでも続くしっとり感。ご飯を食べたと思える満足感。ご飯とおかずの口内調味に最適なお米「福、笑い」。ご飯だけで食べ、おかずと一緒に食べ、食事のめでお漬物と食べる。ご飯のフルコースが楽しめる、今までの品種にはなかった新たなお米が「福、笑い」です。

日本一の米を目指して

満を持して、「福、笑い」は今秋、本格デビューを迎えました。ふくしまにゆかりのある皆さんにこそ、じっくり堪能していただきたいお米となっています。

商品は店頭販売のほか、オンラインストアでも購入が可能です。詳しくは、以下のホームページをご確認ください。ぜひお買い求めいただき、これまでにない香り、あまみ、食感をお楽しみください。

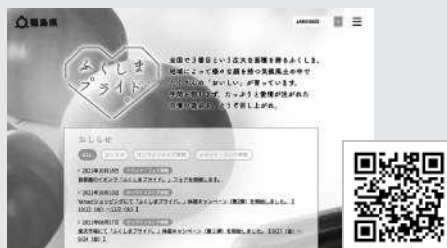
本来のおいしさを味わっていただくためにも、シンプルにおむすびやお漬物でいただくなど、お米を主役に召し上がることをおすすめします。



「福、笑い」特設HP



ふくしまプライド便



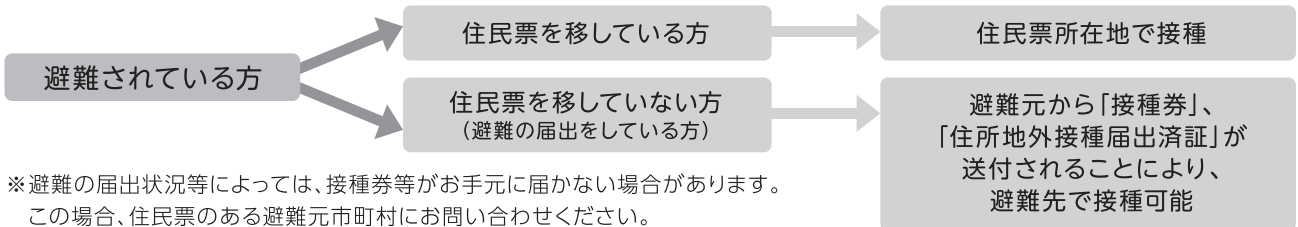
避難されている皆さまの避難先自治体でのワクチン接種について

新型コロナウイルスワクチンの接種は、住民票がある市町村で受けることが原則とされています。

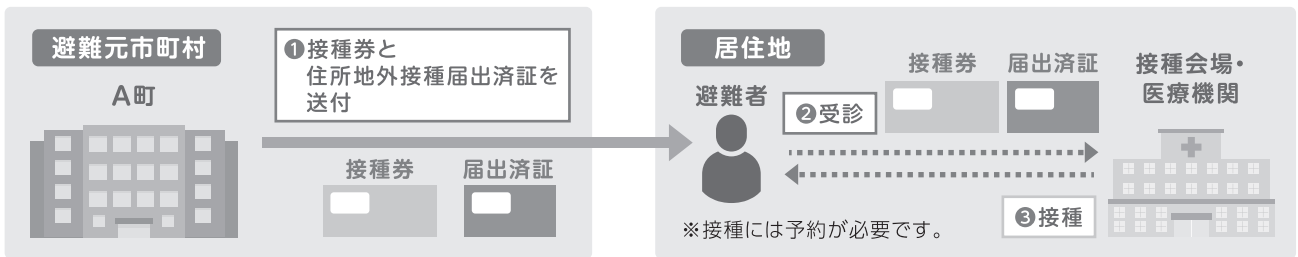
一方、東日本大震災により避難されている皆さまは、住民票を移していない場合でも、特別な手続を行うことなく、避難先市区町村で新型コロナウイルスのワクチン接種を受けることが可能です（避難の届出をしている方に限ります）。

住民票のある避難元市町村から「接種券」と「住所地外接種届出済証」が送付されますので、避難先の住民と同様に接種予約をし、この両方を接種会場に持参いただければ、接種を受けることができます。

なお、予約手続は、避難先市区町村によって異なりますので、避難先市区町村に確認いただくか、広報等で確認されるようお願いします。



※避難の届出状況等によっては、接種券等がお手元に届かない場合があります。この場合、住民票のある避難元市町村にお問い合わせください。



※避難先市区町村以外の自治体（避難元自治体を除く）で接種を希望する場合は、希望する自治体に「住所地外接種届出済証」の申請手続をしていただく必要があります。

※令和3年6月1日より、ワクチン接種の対象者が拡充され、12歳から15歳の方も対象となりました。

※15歳以下の方が接種を受ける際は、原則として保護者の同行および予診票に保護者の署名が必要になります。

※企業や大学等における職域接種の場合は、接種券がまだ届いていない方も接種を受けることができます。

※接種について不明な点、心配な点がありましたら、避難元市町村へお問い合わせください。



福島県 原子力損害の賠償請求にお忘れはありませんか？

原子力損害の賠償請求で分からないことやお困りごとがあれば
お気軽にお問い合わせください。

対面での相談

● 弁護士による相談 ● 不動産鑑定士による相談

※事前の予約が必要です。相談料は無料です。

電話での相談

● 弁護士による電話法律相談 ※毎週水曜日（祝休日を除く）午後1時～午後5時



福島県ホームページ

◆ 申込み問い合わせ

原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口 ☎024-521-8216（平日：午前8時30分～午後5時15分）

文部科学省 原子力損害賠償紛争解決センター（ADRセンター）について

ADRセンターでは、原子力発電所事故による損害賠償について、東京電力の提示条件に納得できない、裁判では手続が大変そうだ、など感じられている方々に対して、弁護士資格をもつ仲介委員が個別の事情に応じた和解の仲介業務を行っています。

公平・中立な国の機関であり、どなたでも申立てができます。これまで2万7千件以上の申立てがあり、約8割が和解成立しています。申立手数料は無料です（ただし、送料、通信費は要します）。ぜひご利用ください。

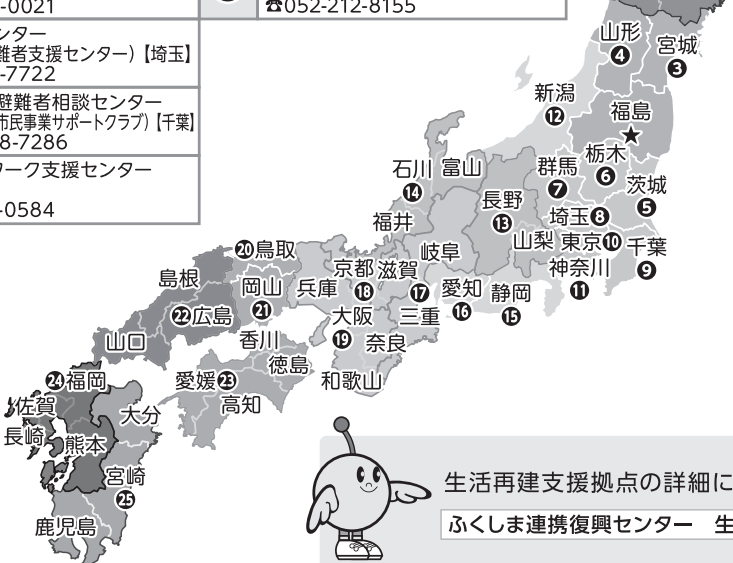
問 文部科学省原子力損害賠償紛争解決センター ☎0120-377-155（平日：午前10時～午後5時）



全国の生活再建支援拠点(相談窓口)について

福島県では、避難先での生活再建や帰還に向けた相談・情報収集ができるよう、全国に「生活再建支援拠点」を設置しています。対面や電話による相談対応のほか、交流会を開催していますので、お困りごとなどがあれば、お気軽にご相談ください。

★ ① ⑦ ⑯	ふくしまの今とつながる相談室toiro 【全国】☎024-573-2731 避難されている方、避難先から戻られた方それぞれの悩みや想いは十人十色。ご相談をひとつひとつ真摯に受け止め、解決に向けてお手伝いいたします。	⑪	かながわ避難者と共にあゆむ会 【神奈川】 ☎070-6471-0311
②	あきたパートナーシップ 【青森・岩手・秋田】 ☎018-829-2140/080-5566-6238	⑫	福島県生活再建支援拠点コランショ新潟 【新潟県社会福祉士会】【新潟】 ☎025-211-2111
③	福島県県外避難者相談センター 【みやぎ連携復興センター】【宮城】 ☎080-9259-7049	⑬	東日本大震災・山梨県内避難者と支援者をつなぐ会【山梨・長野】 ☎090-3088-4749
④	山形の公益活動を応援する会・アミル 【山形】 ☎023-674-0606	⑭	石川県災害ボランティア協会 【富山・石川・福井】 ☎090-9294-6355
⑤	ふうあいねっと【茨城】 ☎070-3182-4044	⑮	福島県県外避難者相談センター【ここさこ】 【静岡県公認心理師協会】【静岡】 ☎0120-42-2828/054-275-2828
⑥	とちぎボランティアネットワーク 【栃木】 ☎028-622-0021	⑯	愛知県被災者支援センター 【愛知】 ☎052-971-2030
⑧	福玉相談センター 【埼玉広域避難者支援センター】【埼玉】 ☎0120-60-7722	⑰	レスキューストックヤード 【ふくしま支援室】【岐阜・三重】 ☎052-212-8155
⑨	福島県県外避難者相談センター 【ちば市民活動・市民事業サポートクラブ】【千葉】 ☎080-5418-7286		
⑩	医療ネットワーク支援センター 【東京】 ☎03-6911-0584		



⑱	なごみ【滋賀・京都】 ☎080-4405-3503
⑳	とっとり震災支援連絡協議会 【鳥取】 ☎0857-22-7877
㉑	ほっと岡山【岡山】 ☎0120-566-311
㉒	ひろしま避難者の会「アスチカ」 【島根・広島・山口】 ☎0120-24-2940
㉓	えひめ311 【徳島・香川・愛媛・高知】 ☎070-5515-2217/089-993-8329
㉔	被災者支援ふくおか市民ネットワーク 【バックアップ】【福岡・佐賀・長崎・熊本】 ☎092-409-3891
㉕	3.11からつながるみんなの家【まあや】 【うみかめのたまご】～3.11ネットワーク～【大分・宮崎・鹿児島】 ☎0985-25-2810/090-9402-1990
㉖	沖縄じゃんがら会 【まちなか研究所わくわく】【沖縄】 ☎080-6498-6720



生活再建支援拠点の詳細についてはこちらを検索
ふくしま連携復興センター 生活再建支援拠点 検索



団体紹介

新潟 福島県生活再建支援拠点コランショ新潟(新潟県社会福祉士会)

(公社)新潟県社会福祉士会では、平成30年度から福島県より「福島県復興支援員業務」を受託し、東日本大震災で被災して福島県から新潟県へ避難している方への支援を実施しておりますが、令和3年4月から、「福島県生活再建支援拠点コランショ新潟」の運営を行っています。

相談しやすい窓口としての「コランショ新潟」の運営と社会福祉士のソーシャルワークを土台とした「復興支援員」の支援活動により、少しでも避難されている皆さまの生活再建に向けたお手伝いをさせていただければと思います。

開所日 月～金曜日(土日祝日お休み) 開所時間 午前9時～正午、午後1時～午後5時 ☎025-211-2111



職員の声

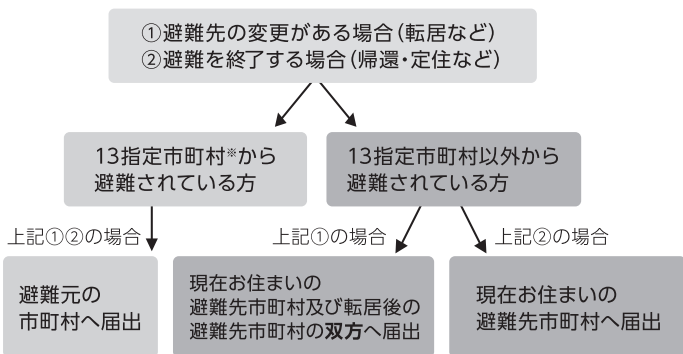
10/12(火)に、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、ワークショップ「防災×食べる もしもの時に役立つ防災クッキング」を行いました。福島の避難者の方だけでなく、福島を応援して下さる方にもご参加いただき、楽しい時間となりました。(相談員 川村)

避難先情報の届出のお願い

避難先の変更(転居をする場合など)がありましたら、右の市町村宛てにご連絡いただくようお願いいたします。福島県や避難元市町村からのお知らせを着実にお届けできるようになるほか、下記の13指定市町村から避難されている方は、避難先においても一定の行政サービスを受けることができます。

※いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、川内村、葛尾村、飯舘村

問 福島県避難者支援課 ☎024-523-4250





「ふたば周遊キックオフカード」 設置のお知らせ

双葉郡8町村の魅力的なスポットを約100か所紹介する『ふたば周遊キックオフカード』を、9月17日(金)からJヴィレッジのセンターハウス入口に設置しています。

カードは「食べる」「見る」「体験」「おみやげ」の4種類に色分けされており、誰でも自由に持ち帰ることができます。約半数のスポットではカードを持参することで、さまざまな特典を受けることができます。

問 Jヴィレッジ ☎0240-26-0111



Voice

帰還した人、起業した人、
移住してきた人の声をご紹介します。

Vol.22

佐藤右吉さん
(大熊町在住)



1人でも多くの帰還を願い、鮮やかな花でふるさとを彩る。

大熊町の自宅に戻り、ざる菊の栽培に励んでいます。始めたのは帰還前の2015年から。当時は会津若松市の仮設住宅から町へ通い、周辺の見回りに取り組んでいました。その道中にある田村市の花に魅せられ、栽培された方に株分けしていただいたのが始まりです。育てたり知人に分けたりするうち、600株を超えるほどになりました。

2018年に準備宿泊で自宅に戻り、以来、腰を据えて栽培に取り組んでいます。2019年からは花で文字を描いて「カエリマシタヨ」のメッセージを発信しました。ニュースなどで取り上げられ、お陰さまで町への帰還をアピールできたのではないかと思います。ちなみに2021年は世相に合わせて「れいわ3ねん」と五つの輪を描きました。

栽培を続けているのは1人でも多くの方に帰還してほしいからです。元通りにするのは難しくても、以前のように同郷の皆さんと気兼ねなく食事やお酒、会話を楽しみたいと考えています。自宅に戻っても、やはり周囲に人が少ないと寂しいですからね。

商業施設があるのは隣町ですが、震災前から車で買い物に行っていたので現在も不便を感じません。この土地は先祖が残してくれた大切なふるさとです。あの戦争からも復興できたので、震災もコロナもきっと乗り越えられると思います。

咲き始めたざる菊の
手入れに励む佐藤さん

庭をゆったり楽しめる
佐藤さん手製の休憩所



私の10年Voice

87号の読者アンケートで、この10年を振り返るメッセージを募集しました。寄せられた声の一部をご紹介します。

避難してきたことを伝えるのに勇気が必要だった初めの頃。しかし、どこにいっても基本的に皆やさしい。困っていたら、お互いさま精神。周りはさほど気にしていないと思ったら気楽になりました。(秋田県 30代)

会津若松市に避難し、借上げ住宅のアパートで生活していました。隣に大家さんが住んでいましたが、日用品や野菜、お菓子などを差し入れてくださり、とても助かりました。今でもその優しさが忘れられず、転居してからも年賀状のやりとりをしています。感謝の気持ちでいっぱいです。(泉崎村 40代)



震災10年のふくしまの動き… **バックナンバーでチェック!**

福島 今が分かる新聞

検索

